



ミクロネシア NEWS

2019年12月18日第15号
JICA 青年海外協力隊
ミクロネシア連邦派遣
小学校教育隊員
磯崎 春美 (中野区立江原小学校)

江原小のみなさん、カセレーリエ！12月も中旬となり、寒さも本格的になってきていることと思います。風邪をひかないように、うがいと手洗いをしっかりしてくださいね。ポンペイは台風のような嵐の日が多く、雨もたくさん降り続けています。しかし、雨がふってもやはり毎日暑いので短パン半袖で過ごしています。

さて、今回は私の仕事の様子をお伝えします。普段は2年生と3年生の授業支援、教材づくりをしています。カウンターパートと呼ばれるパートナーの先生と一緒に授業の内容を相談し、授業の内容や子どもたちの理解度に合わせたワークシートをつくっています。ポンペイでは算数の教科書はありません。アメリカから寄付された教科書が教室に平積みされていますが、分厚く、内容もカリキュラムに合わないことが多いためあまり使われていないのが現状です。なので、ワークシートをつくってどのクラスの子も同じことを学べるようにしています。

(カウンターパートの先生の授業の様子)



(アメリカの教科書、重い！)



それ以外の活動としては、先生たちにむけてのワークショップを行っています。算数の授業についてや、おもしろい学習活動などを紹介しています。算数だけでなく、11月には体育のワークショップを行いました。そこで、3年生の鈴木先生に教えてもらった「キックワンベース」を先生たちに紹介しました。ルールを説明した後に体育館で先生とプレーをし、実際にやってみて疑問に思ったことを話し合いました。その後、6年生の先生が毎週キックワンベースを子どもたちと楽しそうにプレーしてくれるようになりました。

(ワークショップの様子)



(キックワンベースの様子)



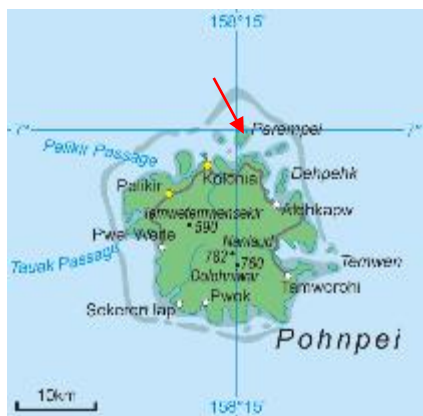
ワークショップを行っても実際の授業で取り入れてくれる先生はあまりいません。先生たちが興味をもってやってみたいと思う内容になるように、毎回知恵を絞っています。そんな時、授業観察に来た他校の校長先生が教室に掲示してある教材に興味を持ってくれ、自校でも算数教材を一緒につくってほしいとお誘いをしてくれました。その学校はポンペイ島の離島、パレム島にある唯一の小学校でした。

パレム島へ出発！

パレムはポンペイ島の北に位置する離島です。校長先生が操縦するボートに乗って行きます。島に着くと、手つかずの自然が広がっていました。道路も車も、もちろんありません。山道を徒歩で移動するのが交通手段です。電気はありますが、電話線はありません。スーパーやお店もなく、食料や生活に必要なものはボートで本島であるポンペイ島に買いに行きます。パレムの人にとってはボートが車の役割を果たしています。

学校に着くと、子どもたちが木に登ってパイヤの実をとっていました。すごく素敵な光景だなと眺めていたら、そのあと校長先生に危ないから木に登ってはいけないと怒られていました。

パレム島の小学校に通う子どもは50人ほど、先生は12人しかいません。とても小さな学校です。



ワークショップ

ワークショップでは「ラミネートを使った教材づくり」を紹介しました。時計、お金、数の位を学ぶためのブロックなどを先生たちと一緒に作りました。ラミネートをすると長く使えること、またホワイトボードマーカーを使うと書いたり消したりできることを伝えると、低学年の先生はとても興味をもってつくっていました。離島の島では文房具も簡単に手に入りません。なので今回作ったものが授業の中で約に立てばいいなと思います。



ほとんどの先生はパレム島出身でした。パレム島では小学校しかないために、大きくなるとみんな島を出て本島やグアムの高校や大学に行ってしまう。そのままその場所で仕事を見つけたり、結婚をしたりして戻ってこないことも多いそうです。こうして自分のいた場所に戻ってきて子どものために仕事をしている人たちはとても貴重な存在だと感じました。

さて、ミクロネシアでの生活も残すところあと3カ月になりました。ミクロネシアニュースもあと3回の発行で終わります。みなさんに日本から離れた小さな島のことをもっと知ってもらいたいと思っています。

それではみなさん、健康に気をつけてよいお年をお迎えください。

